

# 回覧 西部自治会連合会だより

西部自治会連合会会長 高橋邦夫

去る十一月二十七日に西部自治会連合会主催の「副市長さんとの西部地域懇談会」がもたれました。市側から石黒豊副市長、細川修市民協働課政策幹、自治連より高橋邦夫会長、各自治会長、西部地区市議会議員、西部地区の民生・児童委員協議会、福祉推進委員会、防犯指導員会の役員等二十名が出席し、西部地区に係わる課題や要望を発表し、それについて副市長さんより市の立場・考え方をお聞きしました。

会長 しばらく市との懇談会は途絶えていたが、今回は、私共が日頃思っている考えや意見を述べ、西部地区にはこんな問題点があるんだということを市当局に理解していただき、計画の俎上にのせていただければ大変有り難い。最初に市の課題について説明いただきたい。

副市長 現在、上田市が抱えている合併以降の問題を述べたい。面積は3倍になった。議員の定数が減り、首長が一人になった。これだけでも十億の節減だ。職員数も十年で186人減らせという。これまですでに五十数名減員をしている。この他、諸々の行政改革で二十一年度は二十一億くらい節減になると予想される。

十年間に限って合併特例債があり、総額三百九十億くらい。だから

ら借金をしなくてやっていけるかという話ではないが、J・T跡地に市民会館と美術館の計画を進行している。これは特例債ということになるが、四市町村の理解をいただきたいながらやわていく。

上田市がこれから発展していくために何をなすべきか。上田のシンボルとなりうるものは何か。大型の文化施設をつくれればいいというだけでは、地域間競争に勝つためには、そういった施設も必要だという発想も持ちながらやわていく。

上田市の総合計画を六十人の市民の皆さんに作ってもらった。従来は市で作ったが、新生上田市ということなので、出来るだけ多くの市民の皆さんに係わって頂いて作った。「日本の真ん中」「人が真ん中」「生活快適都市」をキャッチフレーズに総合計画を作っている。

る。行動する市役所を基本理念に持ちながら、市民第一主義の高い行政サービスを、行政と市民の合作で創り上げたい。

この頃、市役所は変わってきたという評価を頂くことがある。市長発想の「ブレークする思考」(将来に向けて何をなすべきか考

えている。人を減らせ・金が無いという中で、去年と同じ発想で市政を担っていくことは出来ない。検討した結果良かったから去年と同じで行こうというのなら良いが、マンネリ化の中で従来の踏襲型の行政を打破したい。これが市政が活性化してきたという評価につながったものと思う。

ところで、長寿高齢化・少子化ということが出てきた。平成十七年、日本の人口が最高になり、この時から人口が下り坂になり、さらに、団塊の世代が退職を迎え、税収が上がらないということになってきた。そこで、将来に向けてどうすればよいか。上田市が持続的な発展をしていくには、市民の皆さんの力を借りる「市民協働」しかないと考ええる。

合併をする時、対等合併ということで、第一ステージとして各地域に地域協議会を設置した。その

後、第二ステージでは「わがまち魅力アップ応援事業」というので、地域の活性化につながることをしてほしいと地域予算を設定した。第三ステージでは地域協議会・自治会連合会を含めて「市民協働」をどう進めていくかの研究をしながらはならない。

合併をなぜしなくてはならなかったか。福祉から学校から今の水準を保つためには、いくら行政改革しても足りない。例えば、学校は三十六校ある。三年ずつかけて一校ずつ建物を建てていくとすれば、今、建てた学校は百年先でなくては出来ない。建物は百年も持たないので、市民協働で違うところを応援していただいで、そこから財源を生み出していかざるを得ない。

これまでの水準を維持するとすればお金も無くなつていくから、税金をもっと払って貰わなくてはならない。行政だけではやっていけないから、市民の皆さんの力を借りてやっていくという発想であるが、是非「理解をいただきたい。五年前から「観光リーディング産業」に取り組んでいる。上田城跡公園の桜を観るために、観光バスが五年前は二百台ほどだったが、今年は一千三百六十一台に

なつた。市民の中には混んでいてゆつくり見られなくなつたと聞く。また、商店街の皆さんは多くの観光客がきたが、自分の店まで来なかつたという。これだけの人が来ているのだから、自分の店まで連れてきて商売をするという発想を持つてほしい。

市の職員総動員という形でやってきたから、初めは不平もたくさん出た。でも、地域産業を観光の中で何とかできないかという発想のもとに協力してほしいというところで、今年には不平は表面に出てこなかつた。これを今後も何年も続けていくことはできないが、あと、一、二年助けてほしいと話してきたい。これからは、民間の皆さんも観光客を増やすには何をすべきか、市全体の皆さんの力を借りてやっていきたい。

### ○上田警察署の移転について

上田警察署が移転すると言うことであるが、これは西部地域にとつて重要な問題である。安心・安全の要であつた警察署が移転してしまうということは、地域住民の安心・安全ターミナルが失われてしまうということ、住民はとても不安に感じている。現在、上田駅前交番が西部も含めて塩尻までの広範囲な地域を管轄していることから、治安・防犯体制の脆弱さを

を危惧している。

この地域は、特に高齢化が進み一人暮らしの高齢者も多い。そこで、地域全住民が安心を実感し生活できるためにも、是非、交番の設置をお願いしたい。

副市長 警察署自体は、直接地域の安全に関わつていないというが、そこにあるということ自体が大事だと考えている。跡地は、公的な土地であるが、市が施設を作るとなると市が買い取らなくてはならない。交番だけの土地をといてわけにいかないもので、公民館と産院の移転ということも含めて、この地域でも考えていただきたい。

### ○上田産院の移転・改築と山洋の跡地利用について

産院の移転・改築がなされるとのこと。現在以上に充実した施設の早期完成を待ち望んでいる。

ところで、産院が移転した後を西部公民館の付属施設として、西部地域住民の活動拠点として残してほしい。現在の西部公民館は利便度が高いが狭いため、西部自治会連合会でも会議を開くことが出来ず、会議を持つには地域の自治会館を借りている状況である。

また、自治連の備品などを保管する場所にも不自由していることから、産院の建物の一角を自治連

の拠点として使用できるようお願いしたい。

また、山洋が移転後の跡地は、長野病院が近く、静かな住宅地や小・中学校が近いことから、迷惑施設などでなく、文化施設や福祉施設などに活用するよう指導・監督をお願いしたい。

副市長 基本的には長野病院を中心とし、上田産院を含めた使い勝手のいい、利用者にとって利便がいいということを考えるべきだろうが、まだ、具体的には決まっていない。県の医療制度の中で、リスクを伴う二次医療は産院ではなく長野病院。三次医療というのは佐久病院と篠ノ井厚生病院になっている。長野病院があるのに、なぜ佐久まで行くんだと言うが。

ところで、西部の自治会の活動拠点が少ないということなので、警察の跡地を残すかも含めて、全体計画の中で検討していかなくてはならない。

「物の置き場所にも困るとは思いますが、もうよらなかつた」とのこと。全くその通りだと思つたので、全体計画を立てる中で検討させていたいただきたい。

山洋電気の跡地利用については、先の株主総会で「地元の協力であれだけの工場が出来たのだから、跡地をどこへでも売つて良いとい

う話はない。上田市とよく相談してほしい」との発言があつたとのこと。今、全部買い取る資力は無い。一角ならばだが。

この土地は何でも勝手に作つていいという場所ではない。

### ○生活関連の店が撤退し高齢者に負担がかかつていくことについて

西部地区は高齢者率が高く、スーパーが次々に撤退したため、買い物に不便な地区となつてしまつた。買い物に出かけるには循環バスがあるが、運行表がわかりにくく、また、ステップが高いバスもある。改善を考えてほしい。また、ある市では高齢者の運賃割引があるが、上田市でも考えてほしい。高齢者が自立した生活をするために、外に出やすい地域づくりのために、行政・住民が共に話し合い良い方向になるよう願つている。

また、業者が住民の便宜を図るため移動販売や配達をするなどしているが、業者にも何らかの行政の援助が受けられればと考える。

副市長 現在、青バス・赤バスとしてかなりの場所を運行しているが、もう少し試行期間があるので再検討してみたい。宅配をしている業者に任せきりでなく、共に協力してやるのも解決につながるか

と思うので、業者ともあたらせて  
いただきたい。

○市営住宅の今後と土砂災害警戒  
区域に関して

緑が丘北地区の市営住宅が老朽  
化し、駐車場や雨樋が整備されて  
おらず、生活環境が大変悪いので、  
早急に排水を含めて環境整備をお  
願いたい。

また、隣接自治会も含めて、傷  
みが激しく空き家になっている市  
営住宅があるので、撤去をお願い  
したい。

過日、県建設事務所と市土木課  
とが、土砂災害警戒区域と土砂災  
害特別警戒区域を発表した。この  
沢筋が緑が丘北自治会全域と隣接  
自治会にかかっているが、沢筋が  
道路下になり蓋がかぶさって見え  
なくなっている。これ程の土砂災  
害警戒区域をもつ沢筋が見えない  
と言うことは不安である。防災対  
策のために、どこをどう通ってい  
るのか住民に知らせておくのが良  
いと思うがどうか。

副市長 市営住宅は五十年たちお  
風呂も無かったりで不評の面はあ  
るが、家賃が安くかなり人気があ  
るといふ。緊急性の高いことは、  
当然やるべきことなので予算配分  
をしているが、どんな状況なのか  
聞きながら、それなりの手当を

したい。排水溝は、当然、必要な  
話で、現地へ行ってみよう。空き  
家は必要が無くなれば壊すという  
考え方で、できるだけ要望に添え  
るようにしたい。

土砂災害の話は、こうだからす  
ぐ整備するという話ではない。和  
合沢については、地質調査をして  
詳細計画を進めているという建設  
事務所の話である。不安をおおる  
話になっているので、どうするの  
か全体的な計画を説明してほしい  
ものである。

○太郎山麓からの異臭について

太郎山の裾の「緑が丘」は、緑豊  
かで閑静な住宅地であるが、以前  
から異臭が話題となっている。こ  
のため、土地の買い手が無く荒れ  
放題の土地が目立つようになった  
という。

近年、強力な異臭を感じる日は  
少なくなり、時間的にも短くなっ  
てきているように思うが、「緑が丘」  
という名前を、良いイメージのま  
ま残したい。共に話し合いながら  
良い方向になるよう考えていき  
たい。

副市長 あれだけの凄惨施設であ  
り、餌を工夫したりいろいろされ  
ているが、現実にはあれだけの臭  
いがする。いつ、どの範囲まで、  
どれくらい耐えられない臭いがす

るのか調べ、抜本的な対策を考え  
る必要がある。全面的な対応をど  
うしたらよいか研究させていた  
きたい。

○西部地区の拠点施設について

近年、様々な事業が広域公益化  
するに伴い、連合自治会が広域地  
域住民と一体となって、市民協働  
で事業を促進し振興につとめてい  
かなくてはならない。

過日行われた市主催の「まちづく  
り市民懇談会」では、地域の拠点施  
設が必要との話があった。

ところで、西部地区では、自治  
会連合会の関連組織が事業遂行の  
ため会議を催したくても、拠点施  
設とする西部公民館は利用者が多  
く狭いため、思うように会議を開  
催出来ず苦慮している。また、過  
去の重要記録書類や備品の保管・  
管理等の場所にも困っている状況  
にある。

このところ上田警察署の移転・  
産院の移転改築等公的施設の改廃  
が計画されているが、西部地区の  
拠点となる施設についても考えて  
いただきたい。

副市長 市民協働をやる拠点施設  
は当然必要となるので、市として  
もそういう発想で対応してきてい  
る。昨年は豊殿の地域自治センタ  
ー、次は塩田、その次は川西と城

南公民館のどちらかとなる。西部  
公民館は狭いということが致命傷  
であるが、その次が西部公民館と  
いうことになる。

過大投資はできないが、上田警  
察署からの敷地があれば、グッ  
ドデザインが描けるかどうか。特  
例債のある間にやる努力をしたい。  
西部地区では、上田バイパスが  
通ったという以外は、何十年と大  
型投資がされていないのではない  
か。早急にやらなくてはならない  
ことから、予算査定の中で盛り込  
む努力をしたい。

○西部地区に一言

副市長 西部地区に対する要望と  
いうことではないが、スピード感  
をどうやって持たせるかというこ  
とだと思う。小さい事からやって  
いってという話もあるが、全体計  
画をやって西部公民館の駐車場が  
足りない・施設が足りないから産  
院を使うのがいいか。用地の問題  
から検討はしてみたいが、大きな  
活動拠点は地域の市民協働という  
ことから必要と思っているの  
で、研究させていただけたらと思う。  
西部地区で何をすべきか、これは  
大きな問題で、市民協働を前提と  
したときに何が必要なのか、それ  
じゃ何年後何をするか、大きな課  
題の一つと考えていきたい。